

平成29年度 角田支援学校白石校 学校評価(自己評価)

氏 名

重 点 目 標

I 児童生徒一人一人の教育的ニーズに基づいた学習指導の充実
II 教職員の指導力・専門性の向上
III 安心・安全な学校づくりの推進
IV 特別支援教育の地域のセンター的機能の充実
V 地域に根ざした交流及び共同学習の推進

達成度

1 十分できた

2 概ねできた

3 ややできた

4 不十分

達成状況

A 十分達成

B 概ね達成

C 変化の兆し

D 不十分

8割以上

6割以上

4割以上

4割未満

総合的な学校関係者評価

学 校 自 己 評 価							評価項目ごとの学校関係者評価		
年 度 目 標				年 度 評 価 (月 日 現 在)			学 校 関 係 者 評 価		
重点目標	評価項目(努力目標)	具体的方策	方策の評価指標	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実 施 日 平成30年2月5日 学校関係者からの意見・要望・評価等		
I 児童生徒一人一人の教育的ニーズに基づいた学習指導の充実			・個別面談や教育相談で得られた情報及び一人一人の実態に即した計画を作成する	・保護者との合意により個別的教育支援計画や個別の指導計画が作成できたか	A	2	②白石校内では小中合同学習の場面で、系統性を踏まえた計画を立てる。 ③本校と積極的に連絡を取り合う。特に、進路関係の情報交換を密に行ない進路指導に生かす。	②白石校ならではの教育をさらに深めて欲しい。 白石校だからできることがある。 ③白石校中学部と本校高等部の教員間で共通理解を図りながら今後とも交流を進めて欲しい。	
		①保護者との協働による個別の指導計画及び個別的教育支援計画の作成と活用を行う	・学力や生活力のより確かな実態把握を行う	・実態把握に必要な諸検査ならびに学部の教員による観察を実施し、計画の作成に生かすことができたか	B				
			・個別の支援計画や個別の指導計画の修正、評価を適切に行う	・学部でのケース会において、一人一人の実態に適した計画、評価について検討できたか	A				
		②小学部・中学部の一貫性を考慮した教育課程を編成する	・白石校内の学部間の系統性を考慮し、特色ある教育課程の作成と実践に努める	・学部間のつながり及び白石校の特色を活かした教育課程の編成ができたか	B ⁻				
		③本校の教育課程を考慮した教育課程の編成に努める	・本校の小中学部との連携、高等部への接続を意識した教育課程の編成に努める	・本校との学部間合同学習並びに中学部が高等部で行う実習を教育課程に位置づけ、実施することができたか	B ⁻				
		④志教育に基づき、知的障害児の自立と社会参加を見据えた指導実践を行う	・志教育指導計画(学部)を教科等の指導計画に反映させる	・志教育の計画を踏まえ、自ら考えて行動する(生活する)姿を見据えた実践ができたか	B				
II 教職員の指導力・専門性の向上		①日々の指導や授業研究により校内研究を推進することとおして授業の質を向上させる	・研究テーマに基づき授業改善を中心とした共同研究を推進する	・教師の支援と児童生徒の活動との関連性、授業づくりと児童生徒の変容の関連性について整理、分析できたか	B	2			
			・事前・事後の検討会を重視して充実した授業研究を実施する。	・授業実践、分析を重ねることで教員相互の学び合いが深まり、授業改善を図るための情報を得ることができたか	A				
		②現職教育研修等とおして実践力を高める	・一人1回、指導案(細案)を作成し授業研究を行う	・一人で指導案を書き(TTIによる他教員の協力も含む)、授業を行うことができたか	A				
			・外部専門家等の授業参観や研修会等を継続的にを行い専門性の向上を図る	・指導における疑問等を外部専門家等の指導助言により、わずかでも解消することができたか	A				
			・教育相談の実際の場面に立ち会い、相談の実際を知る	・一人1回、教育相談の実際の場面に立ち会い、主訴と話し合いについて理解できたか	B				
III 安心・安全な学校づくりの推進		①訓練等の計画的な実施により、危機管理意識の向上を図る	・安全教室や防災訓練等の充実を図る	・実際の訓練(交通安全、防火、防災、保護者引き渡し等)の実施ができたか	A	2	④限られた施設であることから学部、各部それぞれが備品等の整理に努める。	②蔵王山の噴火への対応について質問があり、マニュアルを作成したこと、スキー教室時の対応について説明。 ③限られた施設の活用と白石中学校との連絡調整を密に行って欲しい。	
		②緊急対応マニュアルによる実践的な訓練を実施する	・訓練実施後の反省を生かした緊急対応マニュアルの改善を図る	・反省を生かした緊急対応マニュアルの改善ができたか	B				
		③児童生徒が安心して学べる学習環境を確保する	・定期的に学習環境の整備状況の点検を実施する	・毎月点検を実施し、教員ができる範囲での改善ができたか	A				
		④校内における安全の確保と限られた空間の有効活用を行う	・施設設備の整備と有効な活用を行う	・日々備品等の整理を行い、定期的に備品台帳等による確認ができたか	B ⁻				
IV 特別支援教育の地域のセンター的機能の充実		①幼稚園・保育所、小・中・高等学校等への迅速・適切な支援を行う	・依頼のあった教育相談へ速やかな対応に努める	・主訴の緊急度を考慮した上で、速やかな対応ができたか	A	1		①高等学校へは継続支援をお願いします。	
			②関係機関と連携した特別支援教育の充実を図る	・関連機関との会議や研修会における連携を密にする	・共通理解を図りながら、連携の具現化に取り組めたか				A
		③特別支援教育に係る広報啓発活動を推進する	・催し(かくよう講座、学校見学会、指導主事訪問等)開催のお知らせ及びパンフレットを配布する	・適切な時期に案内を発送することができたか	A				
			・児童生徒の作品等を各種作品展に出品することができたか	A					
			・白石校の存在をアピールすることによる広報啓発を図る	・年度当初に教育委員会、小中学校、高校への挨拶まわりをすると共に地域状況を把握して適宜、必要な情報提供ができたか	A				
V 地域に根ざした交流及び共同学習の推進		①地域での共生を見据えた交流及び共同学習を行う	・居住地校、本校、白石中学校、白石二小との連絡・調整等により綿密な計画を作成する	・自立を基盤とした地域社会で生きていくために必要な能力を養うことができたか	B	2	②地域資源の発掘はできている。これまで蓄積した資源をどう活用していくかに重点を置いて計画を作成する。	③ギャラリー皆美の作品展は地域資源活用として有効である。他の作品展も継続して欲しい。	
			②地域の教育資源の活用と理解啓発を行う	・地域の教育資源(人的資源、物的資源)を積極的に活用する	・教育活動において必要に応じて地域資源を活用することができたか				A
			・新たな教育資源を発掘する	・新たな教育資源を見つけ、活用することができたか	B ⁻				
			③学校間交流や居住地校学習によるインクルーシブ教育の理念を実現する	・障害のある児童生徒と障害のない児童生徒が共に学ぶ場の計画とその実践を行う	・障害のある児童生徒と障害のない児童生徒のそれぞれにメリットのある交流ができたか				